

東光まちづくり推進協議会 会議録 令和6年度 第3回

会議概要	
日時	令和7年3月27日（木曜日）午後6時00分から午後8時00分まで
場所	東部住民センター 2階 大集会室
出席者	委員（15名、正副会長以外は50音順） 原田会長，玉田副会長，赤坂委員，五十嵐委員，齊藤委員，高橋委員 徳光委員，中村委員，林委員，本間（健）委員，本間（雅）委員，牧野委員 増子委員，松原委員，横山委員 （欠席 阿曾沼委員，兼松委員，中島委員，中田委員） オブザーバー 菊池 地域まると支援員 事務局 東部まちづくりセンター 鈴木所長，武田主査 東光公民館 田丸館長
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴者の数	0名
会議資料	次第
	資料1 地域まちづくり推進プログラム
	資料2 令和7年度東光地域活動計画（案）
	資料3 とうこう新聞発行事業について

議事の内容

1 開会

協議事項の検討に入るまで，事務局が進行を行った。

2 協議事項

(1) 東光まちづくり推進プログラムについて

資料1内「市への要望・地域からの提案」の追加部分について、要望した各委員から概要説明があった。

【委員】

「不登校児童生徒に対する受け皿等の構築」

不登校（特にひきこもりの子どもたち）児童生徒（小・中・高校生）が、家庭以外で安心して過ごせる居場所の構築を提案する。そうすることで、子どもたちが社会とのつながりを持つことができると思う。

【委員】

「ヤングケアラーに関する情報提供」

市内各地域ごとのヤングケアラーの状況（人数など）について、どの程度情報提供が可能か、提供可能な資料などがあれば知りたい。地域の中にヤングケアラーがいるという認識を深めることで、その存在を加味した地域事業を行うことができると考えている。

【委員】

「高齢者の安心安全を中心とした取組のモデル地区設定」（担当委員欠席のため事務局説明）

市内全域で町内会や市民委員会などの地域活動は停滞しており、住民同士のつながりが希薄になっている。災害時、特に高齢者が安全に避難できるような取組み（声かけなど）を行うモデル地区を設定し、取組結果を市内全体に拡大していくのはどうか。

【委員】

「中高生等のボランティア活動と地域活動との情報共有ができる仕組みの構築」

中高生、大学生などで、ボランティア活動に興味関心がある者は一定数いる。一方地域活動等においても人手不足の問題があり、ボランティアの需要がある。互いの情報を共有し、マッチングできる仕組みがあるとよい。

【委員】

「地域課題解決の取組における地域住民、企業及び学校等の参加促進」

現状では、地域課題を提起する者とそれを実行する者が同じ場合が多い。課題を地域全体で共有し、実行する際の協力を得られる仕組みが必要と考える。企業の協力や学校の参加促進を支援したい。

他の委員から質問等はなく、資料のとおり確認された。

資料1内「課題解決の取組」について、該当実行委員会に所属する委員から、令和6年度末で終了する取組の説明があった。

【委員】

特殊詐欺の手口は日々巧妙化しているため、過去の事例を元に開催する、地域の講習会で最新手口を紹介し注意喚起を図ることは難しさがあるため、特殊詐欺&悪質商法防止講習会については、令和6年度末で終了することを実行委員会で決定した。シニアいきがい事業実行委員会としては、ちよだカフェ（認知症カフェ）や男の料理教室を充実させていきたいと考えている。

他の委員から質問等はなく、資料のとおり確認された。

（2）令和7年度東光地域活動計画について

資料2について事務局より説明があり、3グループに分かれて協議を行った。その後、各グループの代表者が協議内容について発表した。

グループ1（「茶道を通して心を育む「WAの学校」事業」「東光いつも笑顔で世代間交流事業」「シニアいきがい事業（ちよだカフェ）」についての協議内容は次のとおり。）

【委員】

WAの学校については、啓明地区だけではなく、東光全域で展開していければと思っている。各地区からの要望があれば出向いて事業を行うことを目標として次年度も活動を続けていく予定。

いつも笑顔で世代間交流については、平日の午前中開催なので、人の集まりが悪いのが課題。吹き矢の大会があれば、それに向けて人が集まるのではという意見が出た。

ちよだカフェについては、昨年度公園で開催したが、天候に左右されるので今年度は室内開催を複数回予定している。図書館での開催や、昨年に引き続き医大の看護学生にも参加いただく予定。

グループ2（「遊び場「トントン村」事業」「東光(U・D)チクリンピック事業」についての協議内容は次のとおり。）

【委員】

トントン村については、今年度龍谷高校の運営ボランティアの力が非常に大きく、参加人数の増につながったと感じている。次年度も引き続き事業を行っていききたい。

チクリンピックについては、今年度は小学生が実行委員となりボッチャ大会など企画運営したが、彼らの小学校卒業に伴って、次年度の新しい実行委員の獲得が課題。地域の小中学校にも働きかけができるとよい。

グループ3（「シニアいきがい事業」「こども・みらい事業」についての協議内容は次のとおり。）

【委員】

シニアいきがい事業については、男の料理教室と認知症カフェを開催予定。料理教室は会場設備等の関係から申込み人数に上限があるので、次年度は回数を増やし、多くの方が参加できる体制で行いたい。子どもたちと一緒に調理ができる機会もあればよいと思う。

こども・みらい事業については、子どもの居場所、学習支援の活動を継続して行いながら、トントン村やWAの学校といった他の子ども関連の事業と連携し、事業展開を予定している。

他の委員から質問等はなく、資料のとおり確認された。

（3）東光地域のまちづくりの検討と推進について

ア とうこう新聞発行事業について

資料3に基づき、事務局より説明があり、3グループに分かれて協議を行った。その後、各グループの代表者が協議内容について発表した。

グループ1

【委員】

実行委員の数はそのままに、グループ単位で候補の記事を出し合い、その中から掲載する記事を決めるスタイルがよいのでは。

グループ2

【委員】

新聞の発行は継続すべき。人数は5名程度がよいのでは。編集に関しては、どのような年齢層の方に見てもらいたいのか等、方向性を見直す必要がある。ポスターサイズにして、施設などに掲示してもらうのもよいのでは。

グループ3

【委員】

紙面サイズは、A4両面くらいが情報量としてはちょうど良いと思う。事業の概要や写真など、雰囲気伝わるような紙面にし、詳細はまち協HPで確認できるようにしたらよい。

とうこう新聞については、本日の意見を元に実行委員会の4役で話し合い方向性を最終決定する旨が事務局からあった。

3 その他

事務局から謝礼の支払いについて説明があった。

1. 令和6年度東光まちづくり推進協議会謝礼について

4 閉会